

令和4年度 「14歳の挑戦」結団式 激励の言葉(R4.9.30)

高瀬

いよいよ、「14歳の挑戦」が来週に迫ってきました。

本校での実施は、修学旅行と同じく3年ぶりとなります。コロナ禍のため過去2年間の先輩たちが果たせなかった、中学校生活で最長・最大のこの校外活動を、今年、皆さんは体験することができる。まずそのことに感謝したいと思います。

誰への感謝か？まず私が感謝したいのは、2学年の先生方です。皆さんは考えたこともないかもしれませんが、このような行事を計画し準備することは、実はとても大変なことなのです。212名全員が体験できる事業所を探して電話や訪問で受け入れをお願いする。その後も何度も連絡を取って活動内容を確認したり、電話や郵便で連絡・調整したり、ものすごい時間と手間がかかります。それから皆さんの事業所決めや事前学習の準備。どれもこれも、通常の授業や部活動指導にプラスしての仕事です。でも、これらの膨大な仕事をしなければ「14歳の挑戦」は実施できなかった。先生たちが夜遅くまで時間をかけてみんなの顔を思い浮かべながら準備してくださったからこそ、この大事業の実現に漕ぎつけることができたのです。

そして何よりも最大の感謝を伝えたいのは、やはり受入れ事業所の方々です。このコロナ禍にありながら、雄中生の受入れを決意してくださった社長さん、所長さん、センター長さん等の責任者の方々、指導ボランティアとスタッフの皆様にも心から感謝したいと思います。本当は事業所にとっても「14歳の挑戦」の受入れは大変なことなのです。ただでさえ忙しいのに、まだまだ成長途上の中学生をボランティアで指導してくださるのですから。指導に手が取られる分、本来の仕事はできず、事業所にとっては損失でしかありません。それなのに75もの事業所が、雄中生のために受入れの協力を申し出てくださった。こんなにありがたいことはありません。

でも、なぜなのでしょう。なぜ、大人たちはそこまでして皆さんのために、必死で準備し体をかけて実現に向けて動いてくれたのでしょうか。それは、この社会に学ぶ「14歳の挑戦」が中学生の心を大きく成長させることをわかっているから。そして、親や先生たちだけでなく、世の中のすべての大人が、皆さんに「立派な社会人に育ててほしい」「未来の社会を支える力となって、将来、世の中の幸せのためにがんばって仕事をする人に成長してほしい」と本気で願っているからです。

これほどの「大人たちの真心」を知ったなら、君たちも誠心誠意の態度と行動で応えなければなりません。社会から与えられた、この5日間の体験から大切なことを学び取り、人生の糧としてほしい。そして、いつの日か世の中に御恩返してできる力を、着実に育てていってください。そうなることが、最高の感謝のしるしなのです。

皆さんにとって、この5日間が、生涯忘れ得ぬ「貴重な人生経験」となることを願って、激励の言葉とします。